



「ゆとり世代」が中3へ — 文部科学省は「ゆとり」を大幅見直し—

本格的『ゆとり世代』がいよいよ中学3年になり、来年高校受験に挑むことになる。新中3生は、小学1年生の時に完全週5日制が実施され、学習内容も大幅に削られたいわゆる「ゆとり世代」の第一期生だ。

「ゆとり教育」は、60・70年代の知識の詰め込み教育、過熱する受験戦争、学校への疎外感、学歴社会の偏重、小学生まで遊ぶ暇もなく塾通いに追われる現実をマスコミなどのさかんな喧伝によって「脱偏差値」を目指すべきだという考え方のうえにすすめられた。

文部科学省の推進する「ゆとり教育」は、生徒の勉強の負担を減らし、その分心に余裕を持たせ、「総合的な学習時間」などを導入することにより、興味や関心、自由な発想を育てよう。そして、国際社会で通用するディベート力や問題解決能力などの本当の学力を身につけさせようということだった。



しかし、ここに大きな誤りがあった。自分で考える能力は、基礎学力なくしてできるはずもない。新中3生徒が使用した教科書は、数学を例に挙げると、それまでの教科書の内容が4割も削減され、量も少なく、内容も薄っぺらいものになってしまった。

子どもの基礎学力は年々低下し、残されているデータを見ると $3x-7(2x+1)=-x+3$ の方程式の問題の正答率は、96年度:約94%・97年:約93%・98年:約87%・99年度:約73%と20%も落ち込んでいる。



子どもはつまずきを肥やしにして伸びていく。解けない問題・できない問題があったら、もう一度やり直すスパイラル学習の積み重ねにより基礎学力はついてくる。これにはより多くの問題をこなすことが必要である。これは「詰め込み教育」ではない。ところが教科書を見ると、まるで絵本を思わせるような薄っぺらな内容である。問題量はわれわれ団塊の世代に比べ半分近く削られている。

「ゆとり教育」「週5日制」「総合学習」「観点的評価」⇒通知表の評価が相対評価から絶対評価へ。このような学校教育に学力の危機と限界を感じとった親は、子どもを塾に通わせた。

「ゆとり」によって塾通いは解消されるどころか、いっそう過熱させることになり、私学を志望する生徒も増えた。学習指導要領に縛られない私学はこれをチャンスとばかりに、土曜日も授業を実施し、公立と私学の差は学習時間の差がそのまま学力の差となった。

「ゆとり世代」の生徒は、周囲に対する不平不満が多く、問題を人や社会のせいにする。競争は避けがちで、物事に興味を示さない傾向にあり、自分で探すといった自発性に乏しいと言われている。

そのゆとり第一期生といえる新3生徒。来年の高校受験に対して、どう鍛えるか私たちの課題が目前に大きく立ちふさがる。

(ホームページ 塾長コラムより)

■中学生保護者会(入試報告会)開催のお知らせ

4/18(日) 宝殿教室 4/25(日) 別府教室

時間 午後7時～9時

- ① 10年度入試報告(受検結果・公立高校の出題分析・傾向など)
- ② 複数志願制度と特色選抜制度について
- ③ 内申書のつけかた
- ④ 公立高校・私立高校の選定のしかた
- ⑤ 受験を控えての勉強のしかた(高校受験土曜特別講座などについて)
- ⑥ 来年度の高校受験の傾向と対策



■ゴールデンウィークと5月の休業日と振替授業について

中間試験が近づいているため、5/3・5/4 は日曜に振替えて授業を行います。

◎休業日

4/29(木) 昭和の日 4/30(金)・第5週目(につき)
 5/3(月) 憲法記念日⇒振替日 5/16(日)
 5/4(火) みどりの日 ⇒振替日 5/23(日)
 5/29(土)・第5週目(につき)



◎授業実施

5/5(水) こどもの日